

**第7回: 長期のマクロ経済分析**  
**—古い成長モデルと新しい成長モデル—**  
**(第6回の続き)**

担当者: 佐々木 啓明\*

2010年6月8日

---

\*京都大学経済学研究科. E-mail: [sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp)

## —カレツキ・モデル—

カレツキ・モデルの特徴.

1. 価格  $p$  はマークアップ・プライシングで決まる.
2. 稼働率  $u$  は内生変数.
3. 実質賃金  $w/p$  と利潤率  $r$  は必ずしも対抗関係にない.

## ■ 価格の決定

$$p = (1 + \theta) \frac{w}{T}. \quad (1)$$

これは

「カレツキ・モデルでは利潤シェア  $m$  が一定となる」  
 ということの意味する → なぜか?

## ■ 利潤率の分解

$$\begin{aligned} r &= \frac{\Pi}{pK} = \frac{\Pi}{pK} \times \frac{Y}{Y} = \frac{\Pi}{pY} \times \frac{Y}{K} \\ &= \frac{\text{Nominal Profit}}{\text{Nominal national income}} \times \text{Capacity utilization rate} \\ &= m \times u. \end{aligned} \quad (2)$$

## ■ 貯蓄関数と投資関数

$$g_s = s_c r = s_c m u, \quad (3)$$

$$g_i = \alpha + \beta u, \quad \alpha > 0, \beta > 0. \quad (4)$$

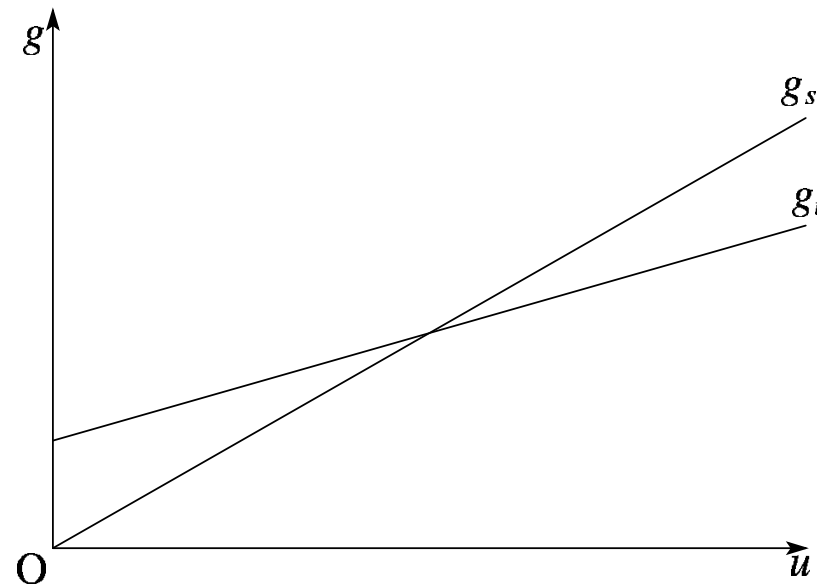


Figure 1: カレツキ・モデルにおける均衡の決定

## ■ 倹約の逆説と費用の逆説

1. 資本家の貯蓄率  $s_c$  が上昇すると何が起きるか？
2. 実質賃金  $w/p$  が上昇すると何が起きるか？

## ■ カレツキモデルの背後で生じていること

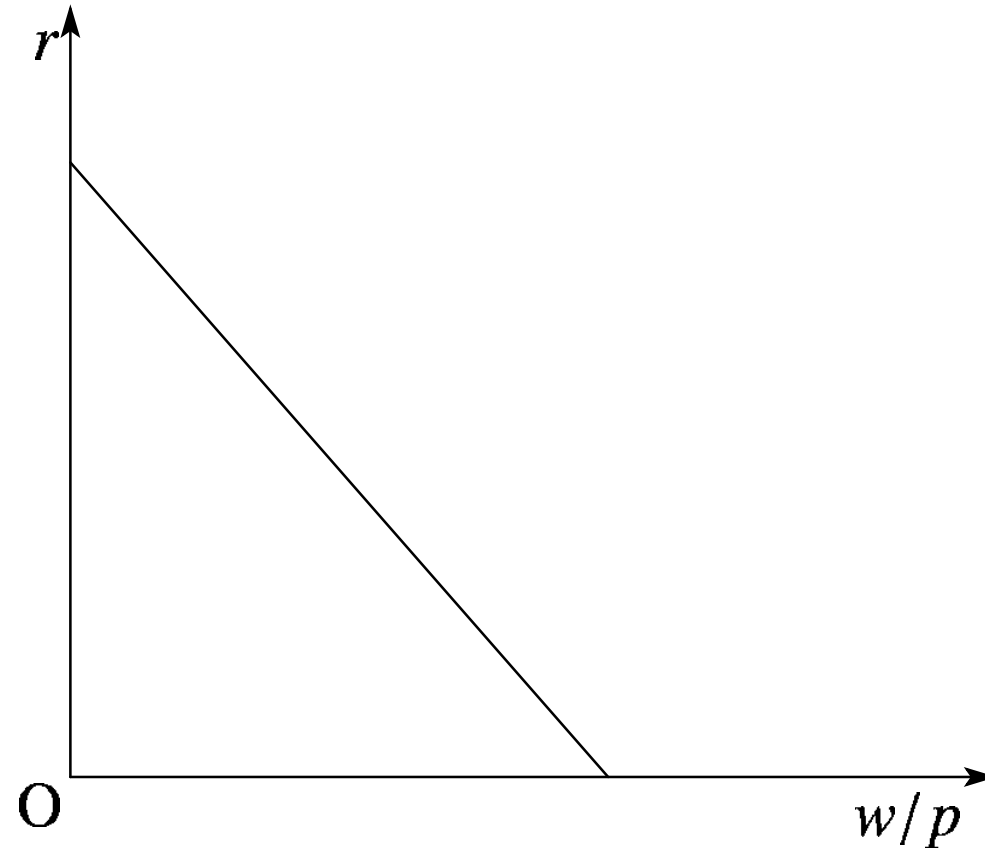


Figure 2: 利潤率と実質賃金の関係